

政官関係・官僚制を徹底分析した  
村松政治行政学研究的集大成！

# 政と官の五十年

## 政と 官の 五十年

村松岐夫  
著

村松岐夫 著

A5判・336頁  
定価 本体4,000円+税

政治主導？官僚制？村度？  
混迷する政官関係の源流がここにあり

国会議員・政党、官僚、地方官僚、地方議員、自治体、社会の諸団体  
それぞれの政治的アクターを徹底分析した村松政治行政学の集大成

第一法規

### 本書の特色

2017年に行政学・地方自治論の分野から文化功労者として顕彰された村松岐夫氏が、これまでの政官関係・官僚制研究論文を選びすぐった村松研究の集大成。

議員、政党、官僚、自治体、社会の諸団体等の政治的諸アクターの影響力をそれぞれ徹底分析。



第一法規

東京都港区南青山2-11-17  
<http://www.daiichihoki.co.jp>

Tel.0120-203-694  
Fax.0120-302-640

# 目次

## 序章 行政神話の解読

- 1 はじめに
- 2 行政と執行
- 3 戦後政治過程
- 4 新自由主義と首相リーダーシップ

## 第1部 政治行政過程の実証的研究

### 第1章 政治的多元主義と行政官僚制

- 1 行政官僚制と政党
- 2 行政官僚制と利益団体

### 第2章 立法過程と政党・圧力団体・官僚の関係

- 1 はじめに
- 2 「国会事前手続」の成立
- 3 圧力団体と立法過程
- 4 国会審議
- 5 国会議員の役割認知
- 6 質疑応答（要旨）

### 第3章 通信行政と産業政策

- 1 はじめに
- 2 電気通信政策に関する決定過程
- 3 郵政省——行政主体
- 4 行政指導と市場の論理
- 5 むすび

### 第4章 圧力団体の政治行動——政党が行政か

- 1 はじめに
- 2 前回（1981年）調査結果と今回（1993～94年）調査結果の比較
- 3 本稿の構成
- 4 団体の活動——政党が行政か
- 5 むすび

## 第2部 中央地方関係と政官関係

### 第5章 地方自治理論のもう一つの可能性——諸学説の傾向分析を通して

- 1 はじめに
- 2 政治学（主として行政学）の地方自治論
- 3 公法学の地方自治論
- 4 諸学説への評価
- 5 地域政治の勃興
- 6 むすび

### 第6章 地方議会の主体性

- 1 制度の枠組み——地方議会の消極的解釈
- 2 議員の意識——地方議会の主体性の進展
- 3 現実——旧図式から新図式へ

### 第7章 地方自治における二律背反

#### ——自律性と行政水準（または活動量）のトレード・オフ

- 1 はじめに
- 2 地方自治の現実化のために
- 3 本当にジレンマか
- 4 市民の態度
- 5 中央政府側の態度について——むすびにかえて

### 第8章 京都市政と行政

- 1 市長と行政組織
- 2 局長と諸アクター
- 3 職員組合
- 4 市長、議会官僚制、職員組合の相互関係

### 第9章 地方分権化改革の成立構造

- 1 改革のはじまり
- 2 分権化改革の内容
- 3 改革の政治構造
- 4 成果への評価
- 5 分権化改革の理想と現実

## 第10章 市長の諸改革評価における対立軸

- 1 はじめに
- 2 市長の影響力
- 3 分権改革
- 4 市町村合併の効果
- 5 おわりに

## 第3部 行政責任と政官関係

### 第11章 カール・フリードリッヒ再読

- 1 行政責任論争
- 2 実態としての政官関係の描写
- 3 カール・フリードリッヒの理論的な問題提起

## 第4部 研究の自立・研究者の自立

### 第12章 政治学者のサイクル

- 1 学問に指導はあるか
- 2 共同作業としての政治学
- 3 論文の書き方
- 4 好きな学者と先達——戦後政治学
- 5 初学者の会おう悩み
- 6 学会市民と徒弟時代
- 7 政治学の社会的な貢献
- 8 まず書き始めよ
- 9 共同研究——自発性と外発性
- 10 研究生活のイメージ

## 事項索引

詳細・お申込みはこちら⇒

<クレジットカードでもお支払いいただけます>

第一法規

検索

CLICK!